

「仲間」として認め合うこと

熊本県立菊池支援学校

高等部山鹿分教室二年 中満優生

私たち人類は、性格も価値観も違います。けれども、その「違い」のせいで、人類はいじめたり、争ったりしていません。「違い」を受け入れることができたら、争いなどさけられるはず。明るく未来をつくるためには、価値観や性格はそれぞれ違うということに自覚することが大切だと私は思います。

私は女性ですが、スカートのヒラヒラした部分が苦手。スカートをはくことに違和感を持っていました。そのことを最初に相談したのは、母でした。母は、私の気持ちをすぐに理解し、

「ズボンで登校しても、いいんじゃない。」
と言ってくれました。しかし、一緒に住んでいる祖母は、このことに反対でした。

「あなたは女性だから。」
と、スカートで登校するようにすすめました。

そのときは、いやな気持ちでした。しかし、
 少しずつ自分の気持ちを伝えていくと、祖母
 は、

「通学してもいいよ。」

と言ってくれました。私のことを理解してく
 れたんだなあ、とうれしく思いました。

学校でも、高校受験の前、担任の先生に、

「ズボンで学校生活を送りませんか。」

と相談してみました。すると、受験した高校
 の校長先生も、ズボンで通学したいという私

の気持ちを理解し、受け入れてくれました。

ズボンをはいて登校していると、同級生に、

「どうしてズボンなの？」

と聞かれることがありました。その度に、私
 はドキッとしていました。しかし、

「スカートのヒラヒラした部分が苦手なん
 だよ。」

と話すと、その人は、

「そうなんだね。」

と、すぐに受け入れてくれました。一人一人

が私のことを認めてくれたのだと思います。
「違いい」という壁が私の前に現れたとき、
私を救ってくれたのは、「違いい」を「個性」
として認めてくれた友達でした。そのことで
私自身も相手を「同じ仲間なんだ。」と感じる
ことができました。

現在、私は菊池支援学校に通学しています。
新しい環境のなかで、最初は、不安もありま
した。しかし、自分に合った学習スタイルを
選ぶことで学習を続けています。また、さま

ざまな個性を持った友達と過ごすなかで、お
互いを認め合うことの大切さをより強く感じ
るようになりました。

私の個性を受け入れてくれた家族、友達、
先生には、感謝の気持ちでいっぱいです。あ
りがとう。

一人一人の個性が輝く明るい社会をつくる
ため、支援学校の生徒の一人として、小さな
ことから、できることを探していきたくと思
います。